

教育実習 カルテ

教育実習での学び をポートフォリオに

教員養成課程では、**教職入門実習**(1回生必修)、**基本実習**(3回生必修)、**併修実習**(4回生選択)と、学校インターンシップ活動を通じて、4年間の中で、教育実践力を培っていきます。学校での体験を通して学んだこと・考えたことを、大学の学びに活かしていきましょう。

教育実習の 目標

【自己の育成】

教職に対する意欲、使命感や責任感、教育的愛情、自己教育力など

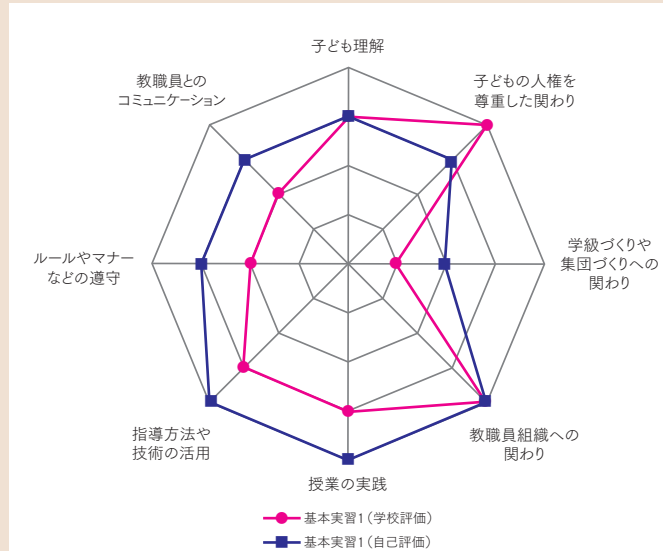
【子どもとの関わり】

子ども理解、生活(生徒)指導、学級経営や教科・保育内容等の指導力など

【教職員との関わり】

社会性や対人関係、コミュニケーション能力など

教育実習カルテは、それぞれの教育実習に沿って作成しています。
ここでは、教員養成課程の基本実習(小・中高)用の教育実習カルテを例示します。



◎教育協働学科、小学校教育専攻夜間コースにおける主な教育実習についても共通の内容になっている。

◎それぞれの教育実習は、実習校園からの評価と事前及び事後指導をあわせて評価します。

◎自分の到達目標を設定し、実習にのぞみましょう。実習終了後は、それぞれの指標について自分がどれだけ達成できたか、自己評価(4段階選択)を行いましょ。

◎実習校園からの評価についても、開示する予定です。



学校現場で学ぶこと



ポートフォリオをもとに大学の指導教員と面談

教師になるために必要な資質能力を身に付ける

生涯を通して日々成長を続ける教師であるためには、自らの意思によって自らの学びをデザインする力が必要となります。本学では、このような自らを育てる姿勢を培うため、履修カルテの活用を推進しています。履修カルテによって、これからの学習の目標を設定したり、学習の成果を蓄積したりしていくことで、自らの成長をふりかえり、次の目標の設定へと繋げることができます。

また、履修カルテでは、ふりかえりと目標の設定を効果的に行うことができるよう、教職に求められる資質能力を4つの指標と27の項目で提示しています。4つの指標と27の項目を手掛かりに、教科・教職科目、ボランティア活動等を通して学んだことをふりかえり、自らの到達点と課題を明らかにしましょう。

4つの指標

1. 学校教育の基礎的理解

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- 子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- 学校教育に関する制度や経営的事項、並びに学校安全、特別なニーズのある子どもの教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けています。
- 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)、教育の方法や技術(情報機器及び教材、又は情報通信技術の活用を含む。)についての理解をしている。

27の項目

- ①教育の理念・教育史・思想の理解
- ②教職の意義
- ③人権教育
- ④子どもの発達に関する理解
- ⑤学校教育の社会的・制度的・経営的理解
- ⑥学校安全・特別なニーズのある子どもの教育・英語教育
- ⑦教育課程の編成及び方法に関する基礎理論・知識
- ⑧情報通信技術等の活用

2. 指導内容の理解と実践力

- 小学校・中学校・高等学校の各教科、保育、特別支援教育の各領域を指導するために必要な内容についての理解を深め、情報機器や教材、又は情報通信技術の活用を含めた学習指導方法の基本を身に付けている。
- 学習環境の整備やアクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりを行うことができる。
- 授業分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、学習指導や授業を構想することができる。

- ⑨各教科など
- ⑩教科書・学習指導要領
- ⑪情報通信技術等の活用を含めた学習指導法
- ⑫基礎知識・基礎学力
- ⑬アクティブ・ラーニングについての理解
- ⑭アクティブ・ラーニングを取り入れた指導
- ⑮学習環境の整備
- ⑯授業分析
- ⑰教材研究・指導計画
- ⑱指導技術・態度

3. 子どもへの対応の理解

- 子ども理解に基づいて、幼児・児童・生徒の指導、キャリア教育及び教育相談に関する理論及び実践的な方法について修得している。
- 特別な教育的ニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。
- 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法について理解している。

- ⑲学習集団の形成
- ⑳幼児・児童・生徒の理解
- ㉑個別・集団指導
- ㉒生徒指導
- ㉓道徳教育・特別活動

4. 教職力量を自らひらく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

- ㉔社会人としての基本
- ㉕子どもに対する態度
- ㉖学び続ける力
- ㉗他者との連携・協力

養護教諭向けの「4つの指標」と「36の項目」は、別に設定されています。

教師になるための 学びの履歴と教育実習

□「ポートフォリオ」(履修カルテ、教育実習カルテ)とは? P1・6

□「4年間積み上げ型」の教育実習とは? P2

□卒業前の必修科目「教職実践実習」とは? P3

□教師になるために必要な資質能力とは? P7



人にまっすぐ、
夢にまっすぐ。

履修 カルテ

あなたの学びの軌跡 をポートフォリオに

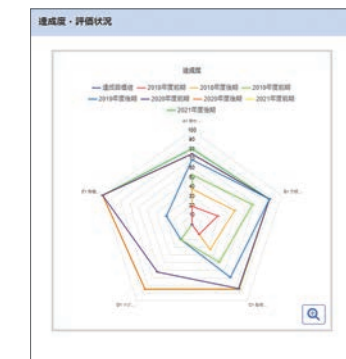
履修カルテは、Live Campus上のポートフォリオから利用します。ポートフォリオは、次の「学修成果シート」、「履修カルテ(科目の履修状況)」及び「履修カルテ(自己評価)」で構成されています。「学修成果シート」と「履修カルテ(科目の履修状況)」は、全学生が入力するものであり、履修した全ての授業科目について「学習のふりかえり」を入力するとともに教師になるために必要な資質・能力への到達度を確認します。到達度は、Live Campus上の成績ダッシュボードで確認します。また、「履修カルテ(自己評価)」は、教員免許状取得に必要な「教職実践演習」において、教師としての成長を見通す基礎的な資料となります。あなたの学びの履歴を、4年間にわたって、自分のデータ、他者評価、自己評価の視点から記録していきます。このカルテをもとに、指導教員との面談を通して自分の学びの軌跡を確認しましょう。「履修カルテ(自己評価)」は、取得予定の免許種に応じた項目(7ページ参照)について入力します。

学修成果シート

■目標設定と指導教員のコメント

成績ダッシュボード

■達成度・評価状況



履修カルテ(科目の履修状況)

■授業科目の履修状況 年に2回、9月と3月に成績(素点と評価)が開示されます。それを見て、学習のふりかえりを記録します。

履修カルテ(自己評価)

■必要な資質能力についての自己評価 年に1回、3月に記録します。評価は4段階です。

